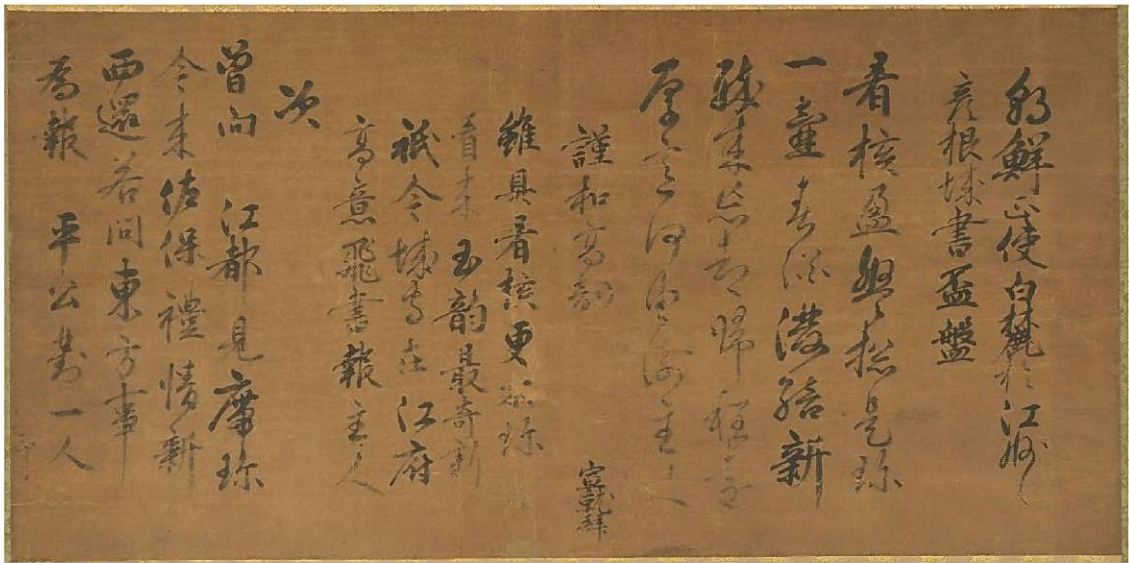


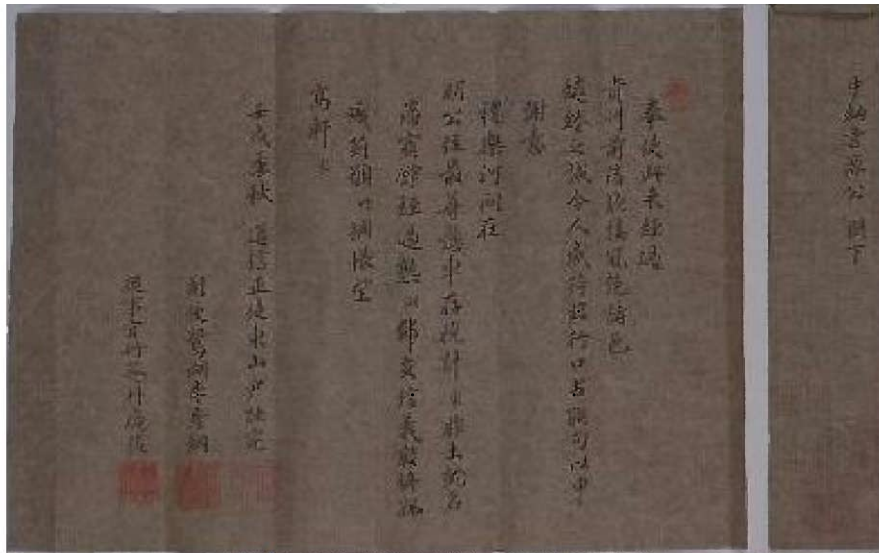
○ 日本側所蔵記録

資料番号	J.Ⅲ-17	資料名	彦根藩岡本半介筆録任統謝詩並岡本半介唱酬詩
------	--------	-----	-----------------------



1636年の朝鮮通信使正使の任統が手厚いもてなしを受けた彦根藩主に対し、謝意を込めて贈った詩を接待役の彦根藩士岡本半介が記録したもの。任統はこの詩を盃盤に記したものの、盃盤は食膳であり保存に難があったことから、岡本が紙に筆録し伝えた。また、岡本が任統の謝詩に唱和した詩も記録されている。朝鮮通信使と御馳走役の大名の交流を物語るものである。

資料番号	J.Ⅲ-18	資料名	朝鮮国三使口占聯句
------	--------	-----	-----------



紙本墨書（縦×横）43.9×61.0cm

1682年に来日した第7次通信使の三使（正使・副使・従事官）が、尾張徳川家の接待に感謝して詠み継いだ漢詩を記したもの。封筒の「中納言源公 閣下」は尾張徳川家二代光友を指す。三使の朱印と姓名の上にはそれぞれの号が記されている。漢詩は別れを惜しみながら名古屋城を眺める心情を詠んだものであろう。徳川御三家の一つ、尾張徳川家に伝わったもの。本資料の写1通とともに、この時の献上品の目録が1組として伝来している。